

(案)

平成 27 年度
第 5 期中原区区民会議 第 6 回課題調査部会

日時 平成27年9月2日(水) 10:00～

場所 中原区役所5階503会議室

第5期中原区区民会議第6回課題調査部会 摘録

- 1 開催日時：平成27年9月2日（水）午前10:00～
- 2 場 所：中原区役所5階503会議室
- 3 出席者：成田部会長、反町副部会長、梅原委員、梶川委員、長尾委員、仲亀委員、松本委員、山崎委員【委員8名】 欠席者：田中委員

（事務局）小野副区長、鈴木企画課長、江口係長、西山職員【企画課】
村田担当課長【危機管理担当】
岩下氏【コンサルタント（㈱カイト）】

4 議題等

- ・正副部会長の互選
- ・会議録確認委員の選任
- ・議題 検討テーマ「地域コミュニティ、みんなで育てる交通マナー～歩きやすいまちに～」に関する調査検討について

5 傍聴者 なし

6 会議内容

- ・会議録確認委員の選任
会議録確認委員の選任について第6回課題調査部会会議録確認委員は梶川委員を選任。
- ・審議テーマ「地域コミュニティ、みんなで育てる交通マナー ～歩きやすいまちに～」に関する調査検討について

（進行：岩下氏（コンサルタント（㈱カイト））

まず、資料1に基づき、審議の内容・進め方、スケジュール予定等について説明がなされ、続いて資料2・資料3に基づいて、これまでの会議での議論や委員から提出された意見を基にした取組提案のアイデア出しに向けた論点整理が示された。

【意見交換】

反町委員 自転車のマナーもルールも中原区に必要なものだ。「自転車安全利用五則」という、以前から川崎でも広報されていた内容があり、動画などの資料も活用されてきたが、この内容が今回の道交法改正後も有効なものなのか、確認が必要だ。ゼロから新しい資料をつくるのではなく、そのまま活用できるものは活用していけたらよい。動画はアピール力がある。既存のものに、中原区ならではの強調したい部分などを加えられればよいのではないか。

より多くの区民に伝えていくには、キャンペーンやイベントなどの手法が有効だと思う。商店街等で行われるイベントでステージの時間をもらったり、ブースを出展し、人気のミュージシャンによるPRといった協力などを得られれば、より発信力があるだろう。区内で広く宣伝していく。今まであまり目を向けなかった人にも、意識づけのきっかけになる。

商店街での路上陳列や路上駐輪は、モトスミ・ブレーメン通りやオズで私も問

題と感じていた。路上陳列は商店に働きかけることで抑えられるのかどうかといったところである。自転車については、買物利用上での不便が発生しないように進めていかないと、商店街も苦しいことになってしまう。駐輪場をつくっても、お店と距離があるところであるとか、使いづらいものでは意味が無い。そうした視点も必要だ。

梅原委員 資料にある「検討にあたってのポイント」を一つ一つ検証して、多く当てはまるものを、検討対象として絞り込んでどうか。

成田委員 交通事故はマナーやルールの軽視の結果として起こるもの。中原区の日常生活には自転車が切り離せない。自分の住んでいる地域で全ての買物を済ませられない人が、武蔵小杉や元住吉などの商店街まで自転車で来ている。通勤・通学に自転車で使っている方々もいる。それぞれ自転車が生活から切り離せない。自転車にスポットを当て、そのマナーから伝えていかないと、全体の解決には繋がらないのではないかと。

山崎委員 自転車の使い方は違っても、マナーはみんなに共通で、同じだと思う。

松本委員 歩道の安全性という意味では、歩道上の放置自転車の他に、ごみ集積所のケースなどが放置されていて、通行に非常に邪魔になっている例がある。以前は高津区の子母口や明津方面から、井田を通り、元住吉の商店街を通って元住吉の駅前に着くバスルートがあったが、このルートは綱島街道の道路工事、櫓橋の架け替え工事に伴い、迂回ルートに変更されている。このルートでは運行に時間がかかり、新たに設置された停留所は駅まで距離のある場所で、この路線を利用していた人にとってはかなり不便になってしまっている。朝の5分の遅れが30分の遅れになったりしているようである。これが元住吉駅まで自転車に通勤する人が増える原因にもなっているのではないかとと思う。

これからはミニバス、循環バスを不便な地域に通す発想も必要だと思う。下小田中や井田などを通りながら、井田病院や国際交流センターなど公的な施設がある場所を周るルート。井田方面から等々力方面はバス路線がなく、かなり不便で、自転車を利用する人が多い。高齢者の方や障がいを持たれている方はバスで何度も乗り継いで行かなければならない。そこで、循環バス。横浜市の南区や日吉などで循環バスの例がある。ワンコイン、100円で乗れるバス。これが普及できないか。井田の山の上の方に住んでいる人の中には、日吉方面に出ている区民もいる。区内を縦に繋ぐ路線はあるが、横に繋ぐ路線がない。区民祭も以前、平和公園が会場だった頃は、住吉地域は平和公園の西公園で神輿などをかつぐなどして楽しめたが、等々力が会場になってからは、行きたくても行けない祭りになってしまった。こうしたことを考えていかないと自転車も多くなる一方だと思う。区民会議ではなく、行政が考えることかもしれないが。

梅原委員 松本委員と同じようなことを前々から考えていた。元住吉近辺の自転車の数が非常に増えている。通勤・通学で自転車を使って来て、みんな駅周辺に置いて行ってしまう。駐輪場もすぐにいっぱいになってしまう。バス路線が無くなったことが原因の一つだと思う。このバス路線の復活や、ミニバス・循環バスをつくる

ことが重要だと思う。昨年末に私が転んでひざを打ち、しばらく歩けなかった時、自転車を非常に頼りにしていたが、駐輪できるところが少なく、不便さを感じた。高齢化が進めば、ミニバスの需要もより高まると思う。どこの地区も同じではないか。

松本委員 麻生区、多摩区、宮前区など山坂が多い地区ではバスがかなり普及している。中原区は概ね平坦で、唯一井田山があるが、今後高齢化する、団塊世代の足を考えても、自転車では危険で、福祉的視点からもワンコイン循環バスが必要かと思う。それがあれば、自転車の利用も抑えられる。タクシーは高価なので、公的な施設を循環するようなルートが一つ中原区には必要かと思う。これまで議員に要望などしてもなかなか進んでこなかった実態がある。なぜ中原区でできないのか疑問に思っている。

事務局 市内では川崎駅から市立病院へのバスがワンコインで運行していたと思われる。それ以外では、現状では市バスは大きな車両しか所有しておらず、ミニバスは運行していない。コミュニティバスについては、市バスではなく、地域の方々からの発意で運営いただいているものに、市が支援をしている形である。また、市バスの路線は公共施設に可能な限り接続して設定されているが、国際交流センターなど、周辺の道路環境等で大型車両が入り込めない場所にある施設では、どうしてもバス停からの距離が生じている。

コンサルタント 区民会議として循環バスをとりあげるのが適当かどうかは、少し検討しなければならないかと思われる。

松本委員 話題として出たということは、ぜひ議事録に残していただきたい。働きかけは続けていかないと、いつまでも実現しない。人口増加、高齢化の中ではいずれは考えなくてはいけない課題だと思う。このままではより自転車に頼らざるを得ない状況である。

梅原委員 どうやったら、民間で循環ミニバスを実現できるか、考えていくことはできると思う。その上で提案していければよいのではないか。多くの区民にも喜ばれると思う。

梶川委員 ブレーメン通りを歩いていると、路上陳列などがあり、現状では大きいバスが通るのは非常に難しいのではないか。だから、ミニバス路線ができればよいと思う。通勤・通学の時だけでも良い。井田の方の町会で働きかけているような話も聞いている。

松本委員 朝の通勤・通学時間帯だけ、過去にバスが通っていた路線を復活させる形が良い。迂回ルートにいつの間にか慣れてしまい、そのままになっている。地元の人ではなく、離れた地域から通う人が利用していた路線で、黒字路線だったと聞いている。商店街の路上陳列もバスが通らなくなってから、増えてしまっているように感じる。以前はバスが通るので陳列を引っ込めざるを得なかったが、ルールが守られなくなってきている感がある。商店街の路上の陳列があるから、買物客の自転車がさらに外の車道上に駐輪されていて、悪循環である。

梅原委員 東横線の高架下に駐輪場ができたが、すぐ一杯になり、ちょっと出遅れると、

駐輪できない。駐輪場に自転車を置きっぱなしにする利用者も多いようである。バスを通すだけでも自転車は確実に減ると思う。

長尾委員 バスを走らせるために何ができるかを調査してまとめることならできると思うが、大きな問題なので、この期で解決してしまおうとせずに、手順などを私たちの任期の中で考えていく。それと並行して、講習会など自転車のマナーアップの取組ができるとよいと思う。

松本委員 道路交通法の改正で、自転車の交通ルールが変わったことを周知していく運動は、警察や交対協なども取り組んでいるが、もっと幅広く、町会以外の皆さんにも広げていく運動が必要だと思う。交通マナーも同様で、区民会議として提案してPRをしていく、例えば、冊子などで運動していく必要があるのではないかな。

コンサルタント 行政でもかなり力を入れ、様々な取組を考えられているところである。その中で、区民会議提案として中原区ならではの、今までにないターゲットややり方が提示できれば、より目立つ、成果に繋がる提案になると思われる。これまでの御意見では、小学生等のお子さんは学校で必ず自転車の講習などの機会があるため、むしろターゲットは、保育園や幼稚園に送迎する親などの大人世代という御意見もあった。

松本委員 PTA活動などの場に区民会議委員が出向き、区民会議でテーマとして取り上げていること、自転車のマナーアップの広報資料の配布や、説明をする。区民会議の名前でPRしていくのはどうか。

子ども会でも、自転車の乗り方など交通安全教室として、中原区や川崎市の大会があり、学科や実地も実施されている。以前、東住吉小学校などでも実施されていた。子どもはある程度、自転車に関するマナーなどに触れている。やはり若いママさんや中学生・高校生がターゲットになるのではないかな。通勤・通学の時に急いでいて、マナーを守らずに走っている人が多いと感じる。春や秋の交通安全週間でもかなり注意しているところだ。マナーやルールを守ろうという形にしていけないと、マナーは悪化していくだけである。

成田委員 転入されてくる方が多いのも中原区の特徴。自転車で保育園や買物に行けるまちということで、中原区にメリットを感じて転居されてくる方もいる。区のこども支援室などと連携して、子育て推進事業の子育てサロンの場などで、転入・出産時の配布物として、ベビーカーや自転車の利用に関するマナー啓発のチラシ、冊子までいかななくてもよいので、配るとよいのではないかな。会合やイベントの中に教室を盛り込んでいく方法もあると思う。

梅原委員 自転車運転免許証にある程度権威を持たせるとよいと思う。ボーイスカウトでは、入ってきた子どもたちにルールを守らせようということで、自転車運転免許証を取得しないと、集会に自転車ではいけないというルールを設けている。そうすると子どもたちは一生懸命、交通ルールを学び、実際に設置した模擬コースで踏切の渡り方など実地訓練を受ける。修了した子どもに渡す免許証も本物の免許証に良く似せた写真や住所なども載せた、本格的なものである。これが身分証明書の代わりにもなればよいと思う。

親にも子どもと一緒に聞いてもらって、親にも発行している。同じような取組

を子育てサロン等でもできればいいと思う。また、自転車運転免許証を持っていれば、商店が用意した駐輪場所に優先して駐輪できる、お店で提示すると割引サービスが受けられるなど特典があるといいと思う。

松本委員 ルールやマナーを守ってもらうには、実現性の点から言うと、イベントや会合にその都度区民会議委員が足を運んで、少しでも時間をいただいて、直接説明するなど働きかけていく必要がある。私も民生委員をしているので、地域の子育てサロンには参加しているが、井田老人いこいの家でやっているサロンには75組以上の親子が来場する。妊婦さんや保健師、ベビーカーや自転車ですらしている方も多し。各地区のこうした場で区民会議からお話させていただくことで、地道に周知を図っていく。PTA活動、地域の行事、老人会の集まりや一人暮らし会食会など。区民会議のメンバーが伺って説明し周知していくのは実現できると思う。

仲亀委員 私は自転車に乗らないが、逆に自転車マナーはすごく目につく。知り合いのある方は「自転車のルールは知らない」とおっしゃっていたが、一方、「これは絶対やっちゃいけないということはある程度マナーで分かっている」ということだった。どういふことをすると警察に注意されるのか、現在のルールはどこで知ることができるのか、どこかで講習が受けられるのかよく分からないとのこと。

大勢の区民が集まる場所で、5分、10分でもよいので、こまめに説明・アピールをしていく、「自転車の事故が増加しているが、あなたはマナーやルールを守っているか」と働きかけていく。これは非常に必要ではないかと思う。

バスに乗っていると、車内のアナウンスが結構耳に入ってくる。ここで啓発のアナウンスを流すのも一つの広報方法だと思う。私も以前は邪魔だなあくらいしか感じていなかったが、区民会議に出て「どうしたら、これがなくなるのか」という視点で考えるようになった。「歩くのより早いから」と気楽に自転車に乗っている方も多しと思われるが、そうした方がマナーを守っていないのならば非常に怖いことだと思う。

長尾委員 PTAとしては、何か配布物があると周知・広報がしやすいかなと思う。PTAの会合などに出てくる保護者の方のごく一部なので、印刷した分かりやすいパンフレットなどがあればいいと思う。子どもを通じて親に配る。子どもが見ても分かりやすいイラストで示せるとよい。子どもから親に伝われば、親もハッとするかと思う。「お母さん、傘をさして自転車乗っちゃダメだって」ということなど。

成田委員 子どもから親はインパクトがあるかもしれない。直接、親に伝えても、忙しくて見ない人も多し。

梶川委員 町会などでもそういった資料があるとよいかも。会合というとなかなか足を運ばない人もいるが、回覧等で周知が図れる。

松本委員 警察や交通安全対策協議会などでもその組織の流れの中で周知を図っている。区民会議はこれらを横に繋いでいく広報ができると思う。ルールなど内容は一部重なってもいいので、区民会議として資料を作り、イベントなどで話し、周知していく取組がよいと思う。「区民会議でとりあげている」という形で、他の細かい取組を繋げていく。実は、秋の交通安全週間が9月21日から始まるが、地域の方

と一緒に歩いて行う交通安全運動で、何年も続いている活動である。終了後の反省会では、毎年のように自転車のマナーの問題が出てきている。

梶川委員 分かりやすい形が必要である。あまり字がいっぱい書いてあると読めない。

松本委員 漫画や絵がよいかと思う。

山崎委員 マナーは「守っているものがバカを見る」というようなことになると思う。お互いにマナーの確認をし合うことが大事。例えば3月19日を“サイクルの日”として、その日に幼稚園の子どもたちに来てもらい、子どもたちが啓発チラシを配る、ボーイスカウトにも協力してもらい、自転車屋さんにも来てもらって車両点検などしてもらい、などといったイベントがあるといいと思う。もちろんそこで配布できる資料があればいいし、区内の様々なキャラクターに集まってもらいと、さらに盛り上がるかもしれない。動画などもお金をかけずにできる方法を考えてやる。個々の取組も大事だが、区民会議として、目立つことやキャンペーンも必要だと思う。これをやることで、その後の個々の取組もやりやすくなると思う。

自転車屋さんの協力をぜひ得たい。保険加入や免許証の取組なども、自転車を買う際にアピールしてもらえればより効果がありそうである。自転車の購入のサイクルは結構速いと聞いている。イベントは自転車屋さん側も喜ぶと思う。

梅原委員 ボーイスカウトでは、ブレーキの調整、空気圧のチェックなど、自転車の整備方法を学んで、認定する制度もある。自転車免許証にも整備に関わる項目がある。リーダーはあまり知識がないので、自転車屋さんを招いて整備を教わったりもしている。

山崎委員 区役所の前でイベントとしてそれをやるのも良いと思います。

反町委員 梅原委員のボーイスカウトの自転車運転免許証の取得にはどのくらいの時間をかけているのか。

梅原委員 一日ではとれない。整備方法をやって、実技もやって、交通ルールも学ぶということで、3回ほどの講習を受けて、試験を受けて合格すると渡す形である。少し厳しいかもしれない。

反町委員 自転車フェスタというようなイベントをやってはどうか。そのイベントに来れば免許証がもらえるというようなことになれば、魅力、話題性や共感性があるかなと思う。子どもたちのモチベーションにも繋がりそうである。学校で配布するプリントやチラシにこのフェスタのお知らせも入れて、子どもたちの方から親に「これに行きたい」と言わせるような、形に繋がるとよい。

梅原委員 中学生くらいになると、制服を着ているときはルールを守るが、普段は守っていないというような子どももいる。

成田委員 本来は、自転車は慎重さが必要な乗り物である。

山崎委員 歩行者は自転車が怖い。自転車に乗る人からすれば、自動車が怖い。自動車の人も歩行者や自転車が怖い。お互いに理解できないものである。また、マナーを守れといわれても、自分の身を守るためにはマナーどころではないということもありそうである。

- 梅原委員** 自動車を運転していると自転車は怖い。最近は車道を走る自転車が増えてきた。
- 山崎委員** 自転車だけを悪者にしてはいけないのだと思う。
- 梶川委員** 歩行者も後ろを全く気にせず急に方向転換したり、斜め横断していたりする。それぞれの立場でみんなルールを守らなければならない。
- 成田委員** 動画など、何か視覚的に捉えていただく機会がやはり欲しい。スケアード・ストレートが中学校、高校の授業で実施されているのも、事故の怖さを実感してもらうためである。これを中高生だけでなく一般の方々にも見ていただく機会をもったり、なかはらメディアネットワークに掲載させていただいて、週数回区役所で映像を流すとか、イベントの機会に映像を提供するなどできるとよいと思う。
- 事務局** スケアード・ストレートについては、今年度から小学校でも一校取り組ませていただいた。小学校では授業参観の際に実施し、保護者の方にも見ていただき、大きな効果があったのではないかと思う。来年度以降は複数の小学校で実施していくことを検討している。
- 山崎委員** スケアード・ストレートとはどのようなものか。
- 事務局** 自転車事故をスタントマンや人形で実際に再現するものである。自転車に乗ったスタントマンが車とぶつかって飛ばされ、実際にはねられる。どういう運転が危険なのか、どういう運転をしていれば、この事故は避けられたのかということが10項目くらいに渡って実演する。例えば、スマートホンの操作や傘指し運転、2台併走などがなぜ危険なのか、校庭に実際に車と自転車を走らせて実演する。例えば、時速40キロで走っている車と自転車がぶつくと人形の首がぼーんと飛んでしまう。非常に衝撃的で、悲鳴が上がる。そこで「実際に事故にあうと君たちがこうなるんだよ」と伝える。
- 山崎委員** テレビ番組等で見たことがある。
- 松本委員** スケアード・ストレートは、先日、下小田中小学校で行われ、以前は小学生には衝撃的すぎるのでPTAの親だけでということだったが、今年は児童も、授業の中で、大勢の地域の方や保護者などもいる中で実施された。スタントマンが自動車とぶつかって、ボンネットの上に叩きつけられて、というような実演がされた。「交差点はきちんと左右を確認してから渡る」「ヘッドホンやスマートホンなどしていると注意散漫になる、車がクラクションを鳴らしていても分からないことがある」など、事故を再現しながら説明がされていた。以前よりも小学生や親への認知度は上がってきていると感じている。下小田中では町会も交通安全に熱心な地域なので、まず取り上げていただいた。本日の参考資料にもさまざまな取組がありいろいろやっているが、中でも自転車は事故も多く、現在、マナーが悪いと感じられるし、区民会議でもとりあげる必要が大きい。区民会議らしい形として、横に繋いでいくということをやらなくてはならないと思う。
- 事務局（危機管理担当）** 私は、10年前に自転車安全運転者証の作成をさせていただいた。同様の取組は、全国で様々な事例があったが、名称や効果、権限などが課題になっている。似た取組では荒川区の事例が有名だが、区ではなく、警視庁の荒川警察署の取組である。自治体や警察署、二輪車普及協会、交通安全協会などが取り組んでいる

例があるが、免許証や運転者証といった名称は、先ほどのとおり、名称や効果、権限などが課題であって、その使用に気をつけなければならず、免許証という名前を使いたがらない傾向がある。また、なかなかコンセンサスが得られない。

本市の取組でも神奈川県警の方々と一緒に荒川区の事例なども視察し、川崎市で同じような取組ができないかと検討したところである。

大田区の萩中公園など、交通公園として公園の中にコースを設けて、そこで研修をして初めて免許証や安全運転者証を交付する取組が行われているところでは、地域の意識も高まり、学校もバスで生徒をまとめて連れて行って受講させるという教育をしながら、交通、自転車に触れ合う機会をつくっている。ところが、川崎市には、昔は平間にあった交通公園が現在はない。

自転車の交通安全は全国様々な自治体が課題として取り組んでいるが、なかなか解決していない問題でもある。違法駐車監視員制度を導入し、コインパーキングが増えた例がある。自転車運転を免許制度や、登録制や試験性、ナンバープレート制にするには、課税などの検討も必要になる。道徳の授業に取り入れるという検討も本市で行ったが、国の制度に関わるような話であることから、区民会議ではなかなか難しいのではないかと。

免許証を考える際はどの団体がどのような権限、メリットで発行するかということがカギとなる。「免許証」という名称は、警察署等が使いたがらない傾向にあり、少なくとも10年前、川崎警察署は免許証の名称を使ったり、その発行に関わることは積極的ではなかったと記憶している。本市の自転車安全運転者証の取組では免許証の一般カードとゴールドカードを参考に、自転車に貼るステッカーについて、1回だけ講習を受けた人と、2回以上受けた人に色の違うシールをつくるなど、工夫をしてきた。また、ヘルメット着用を推進する取組も進めている。

マナーアップについては、敵対関係をつくる形にならないように配慮する必要があるかと思う。市民の方は様々な意見の方がいらっしゃる。

梶川委員 母親に前や後ろに乗せられているようなお子さんはヘルメットをかぶっているように思うが、私達も含めて大人はまずかぶっていない。

松本委員 道交法の改正ではヘルメットが明文化されていたかと思う。長野県では通学自転車は必ずヘルメットをかぶるよう、中学生に指導がかなり徹底されている。確かにお子さんにかぶせていても、母親本人がかぶっていないことがほとんどである。「自分のためにかぶる」ということが、徐々にでも徹底できるとよいと思う。

長尾委員 中原は都会だから難しい面もありそうである。田舎道のようにまっすぐな道路が多い環境とは異なる。

事務局（危機管理担当） 6月1日の道交法改正以降の検挙数について、本日中原警察署の方に確認したところ、9月1日までの3か月の間に中原署管内で456件の検挙数があり、県内で3番目に高い数字とのことである。ひと月100件以上の計算になる。

「中原区は自転車事故が多い」というイメージを持たれている方も多いかと思うが、全国的に見ると、最も自転車交通事故が少ないのは北海道。逆に最も多いのは埼玉、浜松、新潟など地方都市で、実は川崎などの政令指定都市はそれほど多

くはない状況。平成 27 年度中に中原区では 146 件の自転車事故が発生しており、全交通人身事故に占める割合が 34.9%で市内ワースト 2 位ではあるが、人口あたりの件数でみると、川崎区 268 件、中原区 146 件、幸区 162 件、高津区 203 件、多摩区 153 件と中原区は下から 2 番目である。事故を減らしていく必要はもちろんあるが、それほど悪い状況ではないことは指摘しておきたい。ちなみに全国では、平塚市は 300 件以上、相模原市中央区は 418 件など、自転車事故が多発している地域もある。データは見せ方によってもかなり印象が変わるので、注意が必要である。

山崎委員 検挙の内訳は分かるのか。例えばどんな違反が多いのか。

事務局 細かい数字は分からない。今回道交法の改正で 14 項目に赤切符が切られるようになったが、私が聞いている限りでは、信号無視や遮断された踏切の横断など、重大事故に繋がりがねない違反は、即その場で検挙しているようである。

梅原委員 飲酒運転はどうか。地元の会合で酒を飲んだ帰りに、自転車に乗ると「みんな違反だ」と言っていたこともあった。

コンサルタント 自転車に話題が集中しているが、他はいかがか。マナーアップについては、キャンペーン、動画、バス内のアナウンス、小学校で配布の印刷物、スタントマンによる実演の拡大などいろいろなアイデアが出てきている。次回に向けて事例や情報を集めて、効果的な手法や絞り込みの議論ができればと思う。

梅原委員 高齢者対策としてのミニバスにぜひ取り組んでみたいと思う。実現すれば自転車の数が減る。問題の原因を切るような形になるかと思う。

コンサルタント それは、長期的な視点で、まず、事例スタディや手法検討、実現までの道筋を示す形になるかと思う。

梅原委員 市バスばかりでなく、民間と協力、補助金の活用などいろいろな手法があるかと思う。いろいろな方法を考えるのも我々の役目かと思う。

事務局 よろしければ、次回資料を用意し、説明させていただきたいと思う。コミュニティバスは市内でもいくつか事例があるので、詳細を情報提供させていただく。ただし、実際に路線を実現させるとなるとハードルがかなり高い現状があるかとは思ふ。

事務局 先日、東急バスの担当者と話す機会があったが、現在はミニバスの車両をつくってはいないそうで、現在走らせている車両に問題が出たり、走れなくなったら、どうするかということが話題になっており、なかなか新しい車両の導入は難しいとのこと。

梶川委員 小杉駅から、井田病院に行っているのは少し小さいバスだったかと思う。

事務局 小型車両ほどではないが、一部は少し小さめの車両が運行されている例がある。例えば、藤子不二雄ミュージアム行きの路線などである。しかし、主流は大型車両で運行されており、バス路線運営の上で最も大きなコストは、実は運転手の給料である。できるだけ大型の車両で一度にたくさんのお客さんを運べる路線が、経営側には効率的ということになる。いずれにしても、コミュニティバスの道筋については、次回資料提供させていただく。ただ、地域の発意が非常に重要であ

り、市内の様々な地域から要望が上がっているが、なかなか実現していないというのが実態である。

梅原委員 横浜市はあったと思う。

事務局 横浜市以外でも武蔵野市のムーバス、稲城市など様々な事例がある。ただ、川崎市全体で考えるのであれば、区民会議の課題ではなくなるし、中原区だけで独自のものを考えると、さらに非常に難しい課題となるかと思われる。他に高齢化や起伏の激しさなど、より深刻な事情を抱えている地域もある。

梅原委員 他の区でも同様かと思う。政令指定都市だからこのくらいはやらないと。

コンサルタント 他の区でも話題になっており、他の区でも苦勞している部分である。中原区よりも切実な地域も数多く存在している。

啓発・周知の面では転入者や保護者をターゲットとする取組が何か一つ提案できるとよいと思われる。他都市の事例など事務局としても少し調査してみたいと思う。ヘルメットについては、デザインやペイントをワークショップで行った事例もある。買物客の自転車駐輪については、茅ヶ崎市の取組で、商店街店舗のちよつとした裏手や軒下の空きスペースを、商店街の方々が自ら回って探し、利用できそうなスペースを見つけたら個別に所有者に掛け合い、日中の買物時間帯だけ駐輪スペースとして開放した例がある。「軒下駐輪場」という取組で設置された場所は、地面に線を引いて示し、掲示など、お金のかからない形で実施している。中原区でも新しい駐輪場の用地の確保や施設の整備は難しい現状があるかと思うので、参考になるかと思う。

梅原委員 商店の裏手などには結構空きスペースがあると思う。

コンサルタント 茅ヶ崎市では行政ではなく、商店街が自主的に取組を進めている点もポイントである。

梅原委員 自転車運転免許証を持っている人が、そこに優先的に止められるとよい。そういう特典があると免許証を取得しようとする人が増えそうだ。

コンサルタント サイクルの日、3月19日というのは山崎委員が考えられたのか。

山崎委員 そのとおり。思いつきだが。

梅原委員 ただのビラではなかなか読まれないことがある。キャンペーンなどに合わせてできるとよいと思う。

山崎委員 子どもに配らせれば、無視ができない方も多いと思う。自分の子どもが配っていれば、お母さんも受け取るのではないか。

コンサルタント ベビーカーの話題があまり出なかったが、いかがか。

梶川委員 駅の周辺エリアでマナー違反に遭遇することが多いと思う。

成田委員 そのものの利用期間が短いことがある。少し子どもが大きくなると、すぐベビーカーからママチャリに移行するので。

梅原委員 歩きながらスマホもよく見かける。

梶川委員 危ないね。

松本委員 子育てサロンには20台~30台のベビーカーが来ることがある。自転車で来る方は少なく、ベビーカーが多い。

梶川委員 そういうところに来る方はマナーが割とよい気がする。

松本委員 ただ、そういうところの路面にごみ置場のケースが出てしまったりしている。

すぐやる方がいて、対応してくれればよいのだが…。うちの町会では対応しているが、誰も手を付けないまま何年も過ぎてしまっている地域もある。バスの問題もそう。難しいからということで、何年も先送りになってしまう。歩道上に歩行の妨げとなっているものなどを除去するというのも一つの提案として出しておきたい。どこの所管でどうするということがまだ決まっていない面がある。

コンサルタント 次回以降は、提案内容の具体的な絞り込み、詳細の検討に入りたい。本日いただいた御意見を改めて整理するとともに、参考になりそうな事例等集めて、情報提供させていただきたい。ミニバスについても、市の現在の制度や実現への道筋について、資料をまとめる。委員の皆さんも何か新しいアイデアや情報をぜひお寄せいただきたい。ターゲットについては、本日は、子どもよりも転入者、親、高齢者などが出ていたかと思われる。

梅原委員 やはり特に高齢者。これから確実に増えていく。

6 その他

次回の第7回部会の日程について、後日、日程調整の上、開催することを確認。

7 閉会

部会長より閉会宣言

以上